

## 循環型林業確立に向けたニホンジカ対策モデルの検討

中部森林管理局 愛知森林管理事務所 森林育成担当 ○旗本 悠太  
総括森林整備官 安田 智宏

### 1. 課題を取り上げた背景

現在、愛知県では「循環型林業の確立」を目指しています。さらに、平成31年からは森林経営管理制度などもスタートし、今後伐採、再造林は増えると予想されます。そこで課題となるのがニホンジカ（以下、「シカ」という）対策です。一方、すでに造林地が増加し深刻なシカ被害に直面している段戸<sup>だんご</sup>国有林では、3つのシカ対策の検証を行っています。この検証結果から「愛知県内におけるシカ対策モデル」を検討することで、民有林の循環型林業の確立への一助になると期待できます。

### 2. 取組の経過

#### (1) 獣害防護柵

平成29年度より、イザナス（旧名：ダイニーマ）、さいねっと、金網の3種類の獣害防護柵を設置し、コストや耐久性、効果について検証を行っています。また、令和2年度より、ステンレス入りのネットの試験地も追加して経過観察をしています。

#### (2) ワナ捕獲による防護

令和元年度より、植栽地周辺にワナを設置してシカの個体数を管理することで、植栽地を守れるのかという検証を行っています。令和元年度の発表会でもご紹介したとおりある程度の成果があったことから、令和2年度では一度ワナを撤去し、令和元年度とのデータを比較することで課題を見つけ、より効果的にワナ捕獲ができるよう取り組んでいます。

#### (3) 単木防護資材

令和2年度より、布製、筒状、樹脂製の2種類ずつ、計6種類の単木防護資材を設置し、コストや耐久性、効果について検証を行っています。

## 3. 実行結果

### (1) 獣害防護柵

イザナスは設置コスト・管理コストともに高く、さいねっとは設置コストは低いものの管理が極めて難しいとわかりました。金網は設置コストが高い一方、管理がしやすく実用的です。ステンレス入りネットも比較的管理がしやすく、特に急傾斜地に向いています。

### (2) ワナ捕獲による防護

2年分のセンサーカメラのシカ撮影回数を比較したところ、ワナ捕獲を行った方が9月、10月のシカ頭数が一気に減ることがわかり、ワナ捕獲の効果を確認できました。（図1）また、6月ごろにシカが出現し始めることや11月は季節移動することもわかりました。

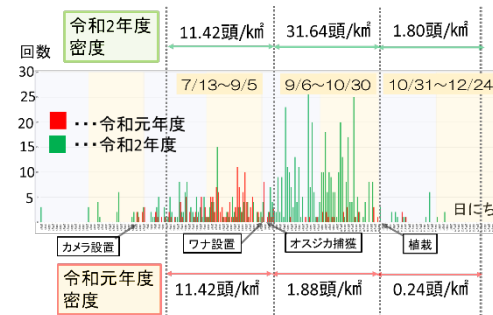


図1. センサーカメラ2年分の比較

### (3) 単木防護資材

布製が最も安く設置できるとわかりました。一方、効果や耐久性については今後も注意深く観察する必要があります。また、1haよりも面積が小さい場合は、金網より単木防護の方が安くなることがわかりました。

## 4. 考察

以上の結果から、愛知県内におけるシカ対策モデルを検討しました。（図2）どの方法も、メリット・デメリット、食害リスクがあります。それぞれの防護方法の特徴をもとに現地の条件に応じた対策を講じることが大切であり、今後も検証を深めていく必要があります。

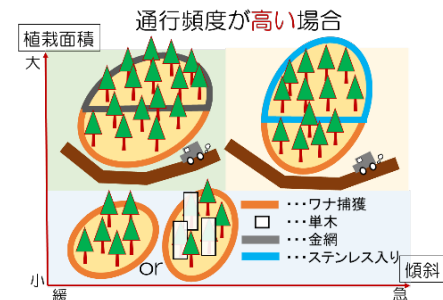


図2. シカ対策モデルの一例